

1. 略歴

1998年3月	東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
1998年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
2000年3月	同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
2000年4月	同 博士課程進学
2003年3月	同 博士課程単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2006年3月	博士 (社会学) 学位取得
2006年4月	お茶の水女子大学文教育学部 講師
2007年4月	信州大学医学部保健学科 講師
2011年5月	奈良女子大学生生活環境学部生活文化学科 准教授
2012年4月	奈良女子大学大学院生活環境科学系生活文化学領域 准教授
2018年10月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

『認知症家族介護を生きる：新しい認知症ケア時代の臨床社会学』東信堂, 2007年, 335頁.

(2) 編著

『病いと〈つながり〉の場の民族誌』(浮ヶ谷幸代と共編), 明石書店, 2007年, 219頁.

(3) 学術論文

「家族介護者の困難経験についての一考察：介護者の主体的対処過程に注目して」『年報社会学論集』14号, 2001年: 39-50.

「家族介護における『無限定性』：介護者一介介護者の個別な関係性に注目して」『ソシオロギス』26号, 2002年: 87-104.

「家族介護における『衰える他者』定義の問題：介護者への援助としての解釈活動」『ソシオロギス』27号, 2003年: 290-310.

「新しい『痴呆ケア』とは何か?：政策言説における痴呆への「働きかけ」の変容過程から」『死生学研究』5号, 2005年: 293-310.

「痴呆をかかえる者とのコミュニケーションにおける二つの理解モデル：疾患モデルから関係モデルへ?」『ソシオロギス』50巻1号, 2005年: 17-33.

「介護者家族会における〈つながり〉：認知症の人の「自己」をめぐるコミュニケーションが提起するもの」浮ヶ谷幸代・井口高志編『病いと〈つながり〉の場の民族誌』, 明石書店, 2007年: 99-126.

「本人の『思い』の発見がもたらすもの：認知症の人の『思い』を聞き取る実践の考察を中心に」三井さよ・鈴木智之編『ケアとサポートの社会学』, 法政大学出版局, 2007年: 73-108.

「ケアの現場：『相互行為』を見出す社会学」武川正吾・西平直編『ライフサイクルと死 (シリーズ死生学 第3巻)』, 東京大学出版会, 2008年: 45-64.

「『人間性』の発見という希望と隘路：認知症とされる人を介護する家族の経験を問うことから」『ケアその思想と実践4 家族のケア 家族へのケア』, 岩波書店, 2008年: 93-112.

「医療の論理とどう対するか：認知症ケア実践での医療批判再考」崎山治男・伊藤智樹・佐藤恵・三井さよ編『〈支援〉の社会学：現場に向き合う思考』, 青弓社, 2008年: 185-208.

「認知症とされる人と生きる家族介護者：社会学の立場から」『家族看護』7巻1号, 2009年: 16-21.

「認知症をめぐる排除と包摂：老い衰えとどう生きるか」藤村正之編著『福祉・医療における排除の多層性 (差別と排除の [いま] 4)』, 明石書店, 2010年: 85-122.

「高齢者関連政策の動向：介護政策を中心に」『保健医療社会学論集』21巻1号, 2010年: 17-24.

「支援・ケアの社会学と家族研究：ケアの『社会化』をめぐる研究を中心に」『家族社会学研究』22巻2号, 2010年: 165-176.

「新しい認知症ケア時代のケア労働：全体的にかつ限定的に」仁平典宏・山下順子編『労働再審 第5巻 ケア・協働・アンパイドワーク：揺らぐ「労働」の輪郭』, 大月書店, 2011年: 127-159.

「医療の論理が認知症ケアにもたらすもの：あるデイサービスの試みを事例にした探索的研究」『福祉社会学研究』9号, 2012年: 121-141.

「認知症の人を介護する家族と支援から学ぶこと」『インターナショナル ナーシング レビュー』35巻3号, 2012年: 61-67.

「『あいまいな喪失』と生きるための実践：認知症の人と生きる家族への支援に注目して」『精神療法』38巻4号, 2012年: 460-465.

「アイデンティティを保ち作るケア：若年認知症の人の新しい社会関係と自己への移行をめぐる実践」三井さよ・鈴木智之編『ケアのリアリティ』, 法政大学出版局, 2012年: 77-105.

「質的研究の論文構成と研究戦略」須田木綿子他編『研究道：学的探求の道案内』, 東信堂, 2013年: 166-176.

「映像の中に見る認知症の人の『思い』：ぼけ・痴呆・認知症をめぐるケア実践の社会学」副田義也編『シリーズ福祉社会学② 闘争性の福祉社会学：ドラマトルギーとして』, 東京大学出版会, 2013年: 151-172.

「閉じること／開くことをめぐる問い：家族介護を問題化する〈まなざし〉の変化を素材として」『支援』編集委員会編『支援』（生活書院）vol.3, 2013年: 40-72.

「脆弱性をもつ世帯への災害の複合的影響：住宅・就労・ケア・移動にかかわる問題に焦点をあてて」（田宮遊子・土屋葉・岩永理恵と共著）『季刊 社会保障研究』49巻3号, 2013年: 299-309.

「インターネットコンテンツによる大学広報：奈良県内諸大学を事例とした比較分析（小川伸彦・藤野千代・磯部敦・吉田信也・松永光代・大淵裕美・宮路淳子と共著）『奈良女子大学文学部 研究教育年報』11号, 2014年: 9-33.

「認知症の人の『思い』と支援実践：語りと現実との関係から問い直す臨床社会学」『N:ナラティブとケア』（遠見書房）6号, 2015年: 62-68.

「『できること』の場を広げる：若年認知症と折り合いをつける実践の展開が示唆するもの」『現代思想（特集 認知症新時代）』（青土社）43巻6号, 2015年: 153-169.

「研究倫理実践の社会学・試論：認知症デイサービス調査における『同意』獲得過程から」『奈良女子大学社会学論集』23号, 2016年: 21-37.

「調査活動『みんなが行きたくなくなるカフェってどんなカフェ？』：インクルーシブリサーチの観点からの検討」（森口弘美・太田啓子・松本理沙との共著）『評論・社会科学』123, 2017年: 83-99.

「特集『領域横断性：創造的活動との接点から福祉社会を考える』に寄せて」（森川美絵と共著）『福祉社会学研究』14号, 2017年: 27-35.

「障害者と大学生との協働ワークショップが家庭科教育に提起するもの」（森口弘美、太田啓子、阪東俊忠との共著）『教育システム研究』13号, 2018年: 295-307.

「レビー小体型認知症サポートネットワーク兵庫交流会の活動と参加者の満足度に関する検討」（九津見雅美・加藤泰子・大塚恒子・森村安史・土山雅人との共著）『仁明会精神医学研究』15巻1号, 2018年: 95-101.

(4) 学会・研究会発表

「介護者の困難経験と現代家族：ケアの相互性の探求に向けて」2000年7月, 第25回SPSN(Social Policy Studies Network)研究会（東京大学）.

「ケア関係の社会学」2000年11月, 第73回日本社会学会大会（広島国際学院大学）.

「地域福祉の構築（4）：介護のマネジメントーケアマネージャー・介護をめぐる環境」2001年11月, 第74回日本社会学会大会（一橋大学）.

「家族介護者の経験と介護者一要介護者関係：家族介護の「秩序付け」の態に注目して」2002年1月, 関東社会学会・研究例会・「ケアの社会学」（慶應義塾大学）.

「家族介護における〈無境界性〉と介護責任」2002年9月, 第12回家族社会学会大会（東京学芸大学）.

「『個別性』への援助：家族介護者の経験と援助」2002年11月, 第75回日本社会学会大会（大阪大学）.

「痴呆をかかえる者とのコミュニケーションにおける疾患としての痴呆理解の問題：「問題行動」の免責の失敗経験に注目して」2004年6月, 第2回福祉社会学会大会（東京大学）.

The change in the image of a person with dementia in Japan after the 1960s: Focusing on policy discourse after 1963, Oct. 2004, The 20th International Conference of Alzheimer's Disease International, in Kyoto (Poster Presentation).

「『新しい認知症ケア』に社会学はいかに向き合っていくか？：〈関係モデル〉的認識論に基づく考察の試みと課題」2005年10月, 第56回SPSN(Social Policy Studies Network)第56回研究会（明治大学）.

「介護者家族会における支援とは何か？：認知症介護における『情報・知識』の意味に注目して」2006年6月, 第54回関東社会学会大会（慶應義塾大学）.

The present situation of Dementia care in Japan, Oct. 2006, The 22th International Conference of Alzheimer's Disease International, in Berlin (Poster Presentation).

- 「書評セッション：井口高志『認知症家族介護を生きる：新しい認知症ケア時代の臨床社会学』」2007年9月，第68回SPSN(Social Policy Studies Network)研究会（日本女子大学）。
- 「書評セッション：井口高志『認知症家族介護を生きる：新しい認知症ケア時代の臨床社会学』」2007年10月，2007年度第5回現代医療研究会Ⅱ（早稲田大学）。
- 「医療の論理とどう対するか：認知症ケア実践における医療批判再考」2008年10月，看護と社会研究会（専修大学）。
- 「認知症ケアにおける〈医療〉の論理：若年および軽・中度の認知症とされる人を対象としたデイサービスの事例から」2008年11月，第81回日本社会学会大会（東北大学）。
- 「質的研究方法に基づく投稿論文執筆の留意点」2009年3月，第24回福祉社会学会研究会（東洋大学）。
- 「『新しい認知症ケア』の時代に考えるべきこと：臨床社会学の立場から」2009年3月，第2回多摩神経内科アルツハイマー病治療勉強会（東京）。
- 「『同意を得る』とはどういうことか？：認知症とされる人・介護家族・専門職への聞き取り調査を事例に」2009年6月，第7回福祉社会学会大会（日本福祉大学）。
- 「認知症介護の現状と課題：社会学の視点から」2009年8月，徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部主催公開講演会。
- 「質的研究法による投稿論文の書き方セミナー」2009年8月，徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部主催研究会。
- 「支援・ケアの社会学と家族研究」2009年9月，第19回家族社会学会大会（奈良女子大学）。
- 「研究倫理と向かい合うことから社会学研究を問い直す：認知症ケアに関する調査経験から」2009年10月，第203回保健医療社会学会関西定例研究会（神戸学生青年センター）。
- 「認知症の本人はいかに描かれてきたか」2011年5月，NHK ライツ・アーカイブスセンター・NHK 放送文化研究所 愛宕山シンポジウム。
- 「新しい認知症ケア時代に考えるべきこと：社会学の立場から」2011年7月，第4回平城京認知症セミナー。
- 「誰に寄りそうのか？：若年認知症の人への支援のフィールドワークから」2012年5月，第63回関西社会学会大会（皇學館大学）。
- 「精神科作業療法実践と生活療法批判：大阪府立中宮病院の場合」（田島明子と共同）2012年6月，第10回福祉社会学会大会（東北大学）。
- 「震災等の被害にあった『社会的弱者』の生活再建のための公的支援の在り方の探究（1）：阪神・淡路大震災と東日本大震災に際した生活保護運用についての検証から」（岩永理恵・田宮遊子・土屋葉と共同）2012年10月，第60回日本社会福祉学会秋季大会（関西学院大学）。
- 「震災等の被害にあった『社会的弱者』の生活再建のための公的支援の在り方の探究（2）：保健医療および福祉サービス給付についての検証から」（土屋葉・田宮遊子・岩永理恵と共同）2012年10月，第60回日本社会福祉学会秋季大会（関西学院大学）。
- How have people with dementia been represented in TV documentary programs in Japan? (1), April 2013, Iguchi Takashi, Akiko Tajima, The 28th International Conference of Alzheimer's disease International, in Taipei (Poster Presentation).
- How have people with dementia been represented in TV documentary programs in Japan? (2), June 2013, Iguchi Takashi, Akiko Tajima, The 20th IAGG (International Association of Gerontology and Geriatrics) World Congress of Gerontology and Geriatrics, in Seoul (Poster Presentation).
- 「『被災の影響』にいかにかアプローチするか？：『震災等の被害にあった『社会的弱者』の生活再建のための公的支援の在り方の探究』調査から」2013年9月，第96回SPSN研究会（日本女子大学）。
- 「ケアの社会学と家族研究」2013年12月，第1回生活文化研究会（奈良女子大学）。
- 「認知症ケアの社会学の構築と再考：どのように研究を展開してきた／いくか」2014年4月，第16回奈良女子大学社会学研究会（奈良女子大学）。
- How news is the image of those with Dementia in 21st century in Japan? :An analysis of TV documentary programs in the NHK Data Archives, July 2014, ISA (International Sociological Association) , WG03, World Congress of Sociology in Yokohama.
- 「『被災の影響』と『災害後の経験』に関する探索的研究：『震災等の被害にあった『社会的弱者』の生活再建のための公的支援の在り方の探究』調査から」2014年12月，国立社会保障・人口問題研究所研究会（国立社会保障・人口問題研究所）。
- 「いわき市仮設住宅入居者調査の自由回答分析：震災2年後の調査から」2015年2月，第44回福祉社会学会研究会（関西学院大学）。
- 「認知症の『本人』の登場はいかになされ、何をもちたらすのか？」2016年10月，第70回日本社会学会大会（九州大学）。

「認知症ケアにおける家族と生活の質」2017年3月,第9回福祉社会科学講座(大分大学)。

「レビー小体型認知症(DLB)における「適切な対応」と「進行」の理解をめぐって—DLBの人の介護者と医療者との質疑応答のデータからの検討」2018年5月,第44回保健医療社会学学会大会(星槎道都大学)。

「認知症経験の変容と相互行為—新しい認知症ケア時代の社会学」2018年7月,家族問題研究学会2018年度大会(日本女子大学)。

(5) 報告書

『「進行する病い」をいかにケアしているのか?』佐藤恵(研究代表)『「現代社会における対人援助に関する社会的総合研究(課題番号19330111)」(基盤研究B)研究成果報告書』2011年:129-141。

『長野県におけるHIV感染者/エイズ患者の受療・療養過程に関する研究報告』(小竹美千穂・小林裕子・山崎善隆・北野喜良・松田幸子・下平徹・上原ます子と共著)2010年,41頁。

『「いわき市内被災者生活状況調査」の自由回答分析:震災2年後の困難と悩みの考察』『震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の研究(2012~2014年度科学研究費補助金研究成果報告書)』2015年:23-42。

「就労・働くこと」患者・家族調査研究委員会編『ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書【速報版】』2015年:11-16。
「働き続けるためのライフスキル:自由記述の分析より」患者・家族調査研究委員会編『血友病患者が日々を過ごす知恵と苦心』(ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書:その共有と継承,「生きなおす」声を聞く追跡調査報告書)2016年:62-71。

「社会関係と生活満足度・将来に対する希望」患者・家族調査研究委員会編『血友病患者が日々を過ごす知恵と苦心(ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書:その共有と継承,「生きなおす」声を聞く追跡調査報告書)』2016年:97-104。

「調査と参加をめぐる個人的な省察」まちづくり協働研究プロジェクトチーム(代表 森口弘美)『障害のある人から学ぶまちづくり協働研究:障がいのあるリサーチャーおよび学生サポーターの育成』2016年:33-36。

(6) その他

「書評:『弱くある自由へ』(立岩真也,2000,青土社)」『社会政策研究』2号,2001年:219-23。

「アクセス権」「若い」「生涯発達」「バリエラビリティ」「文化的再生産」「老年期」『現代社会福祉辞典』有斐閣,2003年:3,39,234,377-378,412,482。

『「ケア関係」はいかにして可能か?』(書評:山田富秋編2004『「若いと障害の質的 sociology—フィールドワークから」世界思想社』和光大学人間関係学部『現代社会関係研究・2004』2005年:85-93。

「書評:『アディクション看護』(宮本真巳・安田美弥子編,2008,医学書院)」『看護』61巻1号,2009年:91。

「介護問題の社会学」日本社会学会編『社会学事典』丸善,2010年:308-309。

「臨床の場とケア」(三井さよと共著)三本松政之ほか編『社会理論と社会システム』ミネルヴァ書房,2009年:124-136。

「白熱教室?:当事者を講義に呼ぶことについて」「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.1,2011年:161-167。

「支援の周辺1 現場への遠近法:(メディア)表象のなかの認知症の人の「思い」支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.1,2011年:88-89。

「座談会 資格は必要か?:ケア・介護・介助と専門性支援」(土屋葉・山下幸子・星加良司と共著)「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.1,2011年:90-137。

「書評 林葉子著『夫婦間介護における適応過程』」『家族社会学研究』23巻1号,2011年:114-115。

「ロングインタビュー 認知症の本人を描くことをめぐって:川村雄次に聞く」(川村有次・田島明子と共著)「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.2,2012年:86-124。

「支援の現場を訪ねて NPO 法人てくてく/カフェギャラリーてくてく(松本市):歩く速度で暮らしたい」「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.2,2012年:182-185。

「ブックレビュー 『どっちつかちなさ』という日常:天田城介著『老い衰えゆくことの発見』角川選書」支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.2,2012年:250-251。

「ロングインタビュー2 東北・東日本大震災支援における国際NGOの活動 難民を助ける会・野際紗綾子に聞く」(野際紗綾子・土屋葉・岩永理恵との共著)「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.3,2013年:236-274。

「支援の現場を訪ねて 若年認知症サポートセンター絆や(奈良市):ゆるくていいじゃない」「支援」編集委員会編『支援』(生活書院)vol.3,2013年:221-228。

「介護・介助における家族の役割は何か?」福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック:現代を読み解く98の論点』中央法規出版,2013年:76-77。

『「新しい認知症ケア」の時代と労働・仕事・活動:認知症ケアの現在地点とその先』『Synodos』
<http://synodos.jp/welfare/6521>。

- 「書評 田代志門著『研究倫理とは何か』』『社会学評論』64巻3号,2013年:514-515.
- 「ブックレビュー 『異文化』での老いることの記述に私たちは何を見るか? : 高橋絵里香著『老いを歩む人びと : 高齢者の日常からみた福祉国家フィンランドの民族誌』」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.4, 2014年: 324-326.
- 「『みんなの問題』について考える」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.4, 2014年: 166-168.
- 「ロングインタビュー 薬害 HIV 被害者の当事者性とは何か? : 花井十伍に聞く」(花井十伍・中塚朋子と共著)『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.4, 2014年: 234-272.
- 「『区切らない』試みとしての認知症ケア」『月刊福祉』97巻10号,2014年:56-57.
- 「イクメン」「介護とジェンダー」「ケアと家族」「ケアをめぐる国際労働移動」「子の看護休暇」「パパの月」「パパママ育休プラス」「普遍的ケア提供者モデル」「保育所政策」比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂,2015年.
- 「いのちをわけること,わけないこと,選ぶこと,選ばないこと (トークセッション)」(大塚孝司・玉井真理子・堀田義太郎・土屋葉と共著)『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.5, 2015年: 146-186.
- 「『家族を語ること』を考える」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.5, 2015年: 144-145.
- 「転換点としての震災経験: 木村高人さんに聞く」(木村高人・土屋葉と共著)『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.5, 2015年: 199-241.
- 「ブックレビュー 社会学の二つの極点:『仕事と家族』『断片的なものの社会学』」『学術情報センター報』(奈良女子大学学術情報センター) 4号,2015年:2.
- 「支援の現場を訪ねて 合理的な支援と手をかけること: 草の根ささえあいプロジェクト(名古屋市)」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.6, 2016年: 137-143.
- 「支援の現場を訪ねて 『学校』という場の持つ意味: ジョイアスクールつなぎ(奈良市)」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.6, 2016年: 237-242.
- 「『症状』探しという症状」『家族介護者になる』という経験について」認定NPO法人 健康と病いの語りディベックスジャパン『認知症の語り: 本人と家族による200のエピソード』日本看護協会出版会, 2016年: 288-290, 423-425.
- 「書評 自尊心を守るケア労働の可能な条件を探る: 岡京子『ユニットケアとケアワーク: ケアの小規模化と「ながら」遂行型労働』」(生活書院)『図書新聞』3258号,2016年.
- 「論文の執筆と投稿に関する講演とラウンドテーブルディスカッション(2016年3月5日)」実施報告『保健医療社会学論集』27巻1号,2016年:142-144.
- 「ケアする子どもと若者たち: ケアを担うということ,そして将来への不安(トークセッション)」(松崎実穂・澁谷智子と共著)『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.7, 2017年: 155-187.
- 「ブックレビュー シンプルに使い出がある一冊: 認定NPO法人健康と病いの語りディベックスジャパン『認知症の語り: 本人と家族による200のエピソード』」『支援』編集委員会編『支援』(生活書院) vol.7, 2017年: 256-257.

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

関東学院大学経済学部(2003年~2006年度前期)

和光大学人間関係学部(2004~2006年度後期)

立正大学文学部(2005~2007年度前期)

山梨県立大学人間福祉学部(2010年度後期)

奈良女子大学生活環境学部(2010年度冬期集中)

静岡大学人文学部(2011年度夏期集中)

山口大学人文学部(2012年度冬期集中)

放送大学(2016年度後期)

(2) 学会

日本社会学会, 福祉社会学会, 日本保健医療社会学会, 日本家族社会学会, 障害学会, 関東社会学会, 関西社会学会, International Sociological Association, 日本社会福祉学会, 日本看護科学学会